

## 谷汲門前街並づくり委員会（揖斐川町）

中心市街地

歴史・まちなみ

### 取組の背景

谷汲門前・新田地区は、揖斐川町の中心部北東に位置し、1200年の歴史を有する西国三十三番満願霊場である名刹谷汲山華嚴寺の門前町で、数年前までは年間100万人以上の観光客が訪れる岐阜県でも有数の観光地であった。しかし、モータリゼーションの普及や娯楽の多様性に加え、平成13年度名鉄谷汲線の廃止により観光客の減少傾向に拍車がかかり、まちの活気が衰えている。また、観光客が正月及び桜と紅葉の時期に集中するとともに、平日の来訪客が少ないなど、構造的な問題も抱えている。

このため、平成18年2月、門前町の店主約50軒が中心となって、「谷汲門前街並づくり委員会」を発足させ、1Kmに及ぶ門前町の街並み景観づくり、地元商店街や地域住民が主体となった「癒し」と「もてなし」活動、多彩なイベントの開催及びこれらの効果的な組み合わせによる観光の再興の取り組みを始めた。



谷汲山華嚴寺の石段

### 取組の概要

既存の巡礼観光客の囲い込みと若者などの新規観光客層の取り込みを図るために、満願霊場門前にふさわしい「もてなし」と「癒し」の提供、イベントの継続的な実施によりにぎわいを創出し「にぎやか」なイメージづくりを目標に掲げ、今年度、集中的なイベントを開催した。

また、外部コンサルタントを活用して、谷汲の持つイメージ、強み弱み、改善のポイントなどを、中部圏の大学生などのモニターにより調査した。

### 取組の内容

#### ○ イベントの実施

1. 谷汲山門前さくら灯籠イベント  
4月5日～16日  
参道の両側に700基の竹製の灯籠を設置し、「桜のトンネル」と呼ばれる美景をより幻想的に演出
2. こいのぼりで参道を彩ろう！  
4月下旬～5月末  
参拝客から寄せられた約100本のこいのぼりを参道に設置
3. 参道もユリがいっぱい！  
6月中旬～7月初旬  
参道の両側に谷汲ゆり園の代表的な品種を軒先にならべ、谷汲山参拝客にもユリの美しさを提供
4. 昭和30年代～なつかしのおもちゃ展  
7月22日～8月31日 谷汲昆虫館  
昭和30年代から現代までのなつかしのおもちゃ約500点を一同に集めたおもちゃ展を開催
5. 谷汲山お十七夜コンサート  
8月17日(木) 19時30分～21時  
場所：谷汲山華嚴寺放生池前  
谷汲山華嚴寺のお十七夜の行事にあわせて、境内にて二胡・琴・ピアノと管楽器の各演奏者によるコンサートを実施。境内の石灯籠の灯りと二胡の演奏が、幻想的な空間の情景を醸し、幽玄の世界を創り出した
6. ミニSLと電動カートに乘ろう  
8月19日(土)・20日(日)、11月12日(日)  
8月は赤い電車友の会が主催した「赤白電車を押そう！」と共催して企画。ミニSLは客車2-3両を接続させ50mほど走行。子供にはカブトムシを先着50名に配布。11月は谷汲観光協会主催の第18回もみじまつりの開催日にあわせ、「もみじまつり」の会場付近で再度企画実施。
7. 谷汲山参道雛人形展  
2月11日～3月11日  
門前・新田の各13商店が当家自慢の雛人形を店先に飾り、全店舗商店街には婦人部手

作りの紙製雛人形を製作し「竹のり雛人形」と名づけ展示。また、地域の保育園児手作りの折り紙製の雛人形 80 数点を谷汲観光資料館に展示。

## ○ 調査

県の振興補助金事業を活用し、揖斐川町が「谷汲門前街活性化施策策定に関する調査」を株エルイー創造研究所に委託。

- ・地元商店街住民中心のワークショップ  
テーマ・谷汲の魅力って何？

9月26日 門前公民館

- ・谷汲門前街魅力発見隊ワークショップ  
揖斐川町内外より募集した学生などにより現地を散策し、谷汲門前街魅力や弱みを意見交換。

第1回目：10月14日

第2回目：12月12日

テーマ・今後街並みづくりのために何をやるべきか（イベントの評価）

第3回目：2月22日

テーマ・谷汲山を含めた観光モデルコースづくり

- ・観先客のニーズを探るため門前街でのアンケート調査（2月11日、18日）

## 成果

まちづくりを推進するための住民主体の組織が形成され、具体的な活動を始めたこと。

イベントが適宜マスコミに取り上げられたことなどにより、来訪者増加の手応えが感じられており、地元住民の「やる気」に繋がっている。（「なつかしのおもちゃ展」開催期の谷汲昆虫館の入館料収入は前年同時期 50%増）

## 成果の要因

名鉄谷汲線の廃止、これを契機とした観光客数の減少により、地域住民及び関係者に危機感が募っており、これが地域住民主体のまちづくり活動の強い動機となっている。従来、門前町と寺社との関係が必ずしも1枚岩ではないとも言われていたが、危機感が共有され、お十七夜コンサートの協力関係など友好的な連携関係が構築されている。

加えて市町村合併により、谷汲地域が揖斐川町の観光の柱となり、行政としても重点的に支援していこうという姿勢が見られることもまちづくり活動の推進力となっている。行政との連携の状況も良好である。活動の初動段階では、全国都市再生モデル調査事業へ応募しており（結果は不採択）、広く情報収集に努め、行政と連携して外部資金の活用を心がけるなど意識が高い。

街並づくり委員会は、商業者同士の結びつきから発生したものではなく、自治会活動から派生したものであり、その結果、当該地域で商業を営む者以外の住民も参加していることも興味深い。

イベントで使用する竹製の灯籠や紙製の「竹のり雛人形」は全て住民の手作りによるものであり、イベント開催経費も自前で準備している。

## 今後の課題

イベントの開催は非常に労力を要するが、一過性のものとせず、継続的に実施していくことが必要と考えている。

最終的には、門前町に相応しい街並み景観の形成や統一に向けた活動につなげていきたいが、時間も経費も必要であり、息の長い活動としていかなければならない。

根尾、両界山横蔵寺、夏の根尾川（ヤナ、釣り）、徳山ダムなど、周辺には連携可能な観光拠点も多く、周遊性の強化策などへの取組も必要。

## 行政への期待

利用できる助成制度は積極的に活用したいと考えており、様々な角度からアドバイスを頂きたい。

特に、イベントの対外的なアピール（マスコミ対策）や、観光ルートの開発などについて、具体的なアドバイスや助力をいただきたい。

## この人にお話をうかがいました！

谷汲門前街並づくり委員会  
委員長 今村博正さん

調査日：平成19年3月1日（木）

調査者：総合政策課 佐藤・板津、

西濃振興局揖斐事務所 木村